資料20-1

第21回 運営･研究部会
2020年度活動報告･2021年度計画、
および、オープンラボ利用状況

2021年6月16日

総会資料

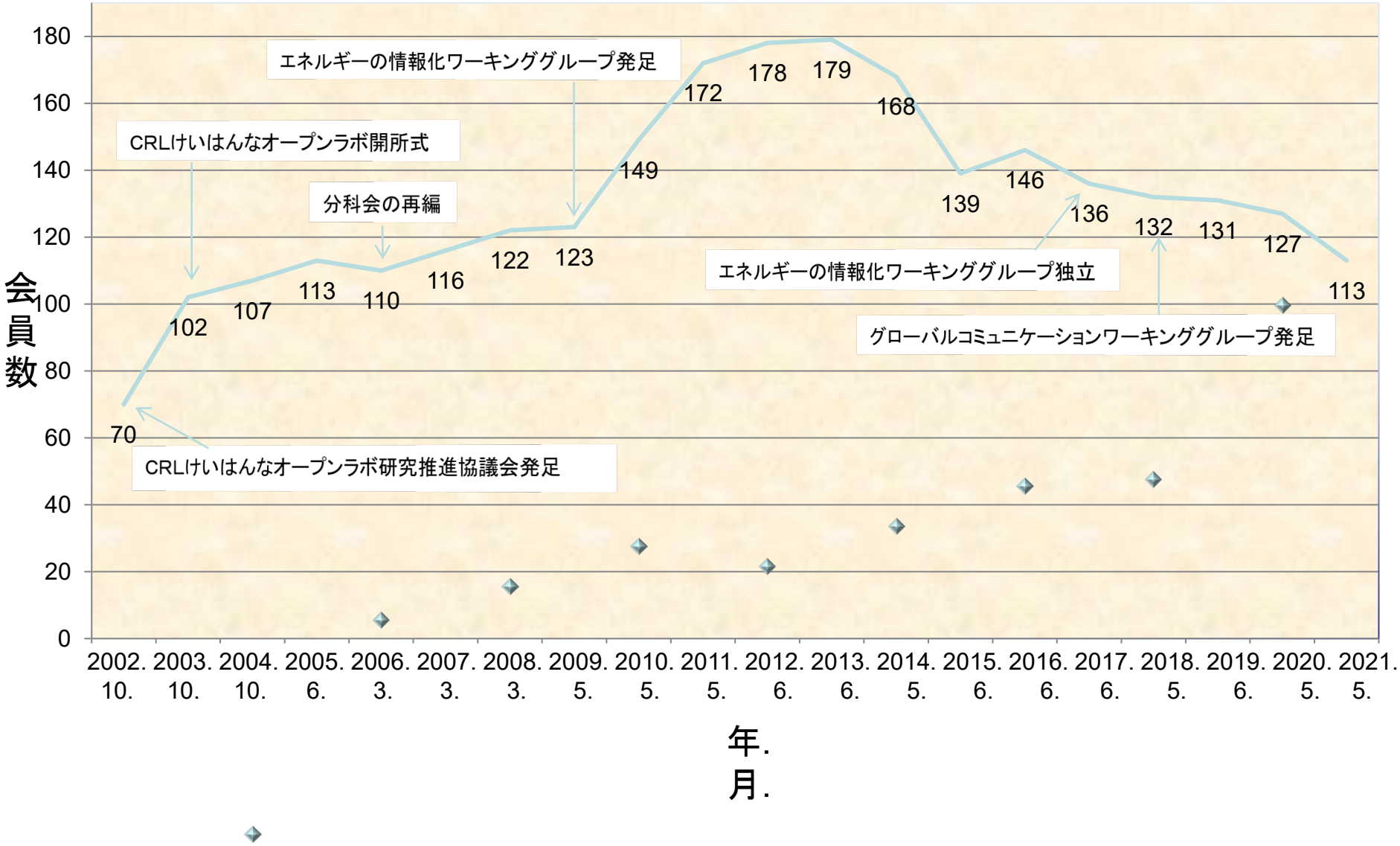
2020年度活動トピックス

- 第19回総会について通常の総会の開催が困難であったため、書面にて開催し、例年行っていた講演会は中止とした。総会では、2019年度活動報告案および決算案、2020年度活動方針案および予算案、および、役員変更案について決議がなされた。

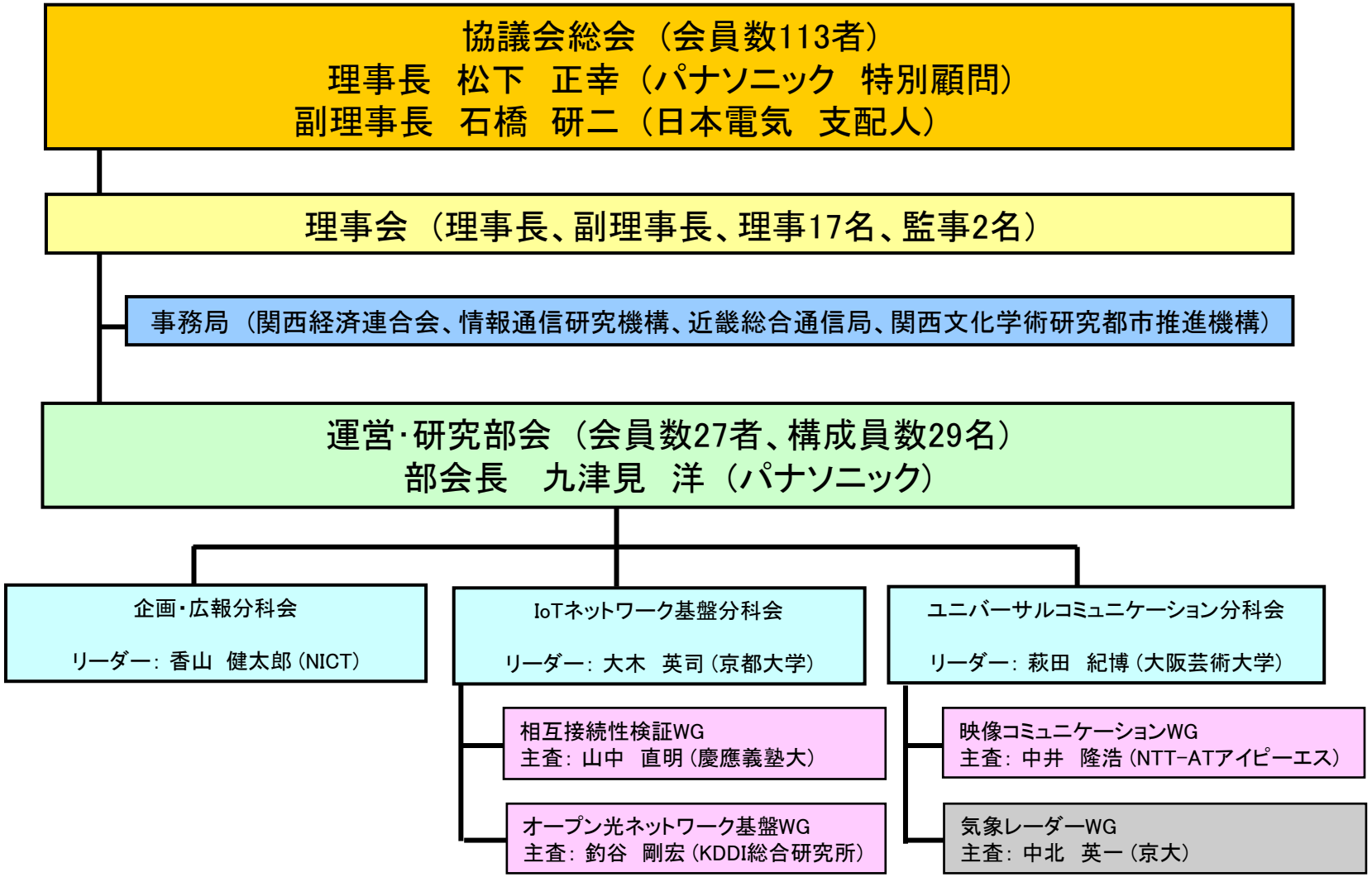
- けいはんなR&Dフェア2020（11月5日-7日）はオンライン開催となったため、ブース展示はできなかったが、オンラインで実施された展示に「8K分身通信」を出展し、パネル等で研究活動紹介を行った。

- けいはんな情報通信オープンラボシンポジウム「ポストコロナ時代の新たな情報通信技術 – 関西・けいはんなへの期待」をオンラインで開催し（2021年2月16日）、全国各地からのご参加を頂いた。

会員数の推移


会員数
年.月.
CRLけいはんなオープンラボ研究推進協議会発足
CRLけいはんなオープンラボ開所式
分科会の再編
エネルギーの情報化ワーキンググループ発足
エネルギーの情報化ワーキンググループ独立
グローバルコミュニケーションワーキンググループ発足
70
102
107
113
110
116
122
123
149
172
178
179
168
139
146
136
132
131
127
113
0
20
40
60
80
100
120
140
160
180
2002. 10.
2003. 10.
2004. 10.
2005. 6.
2006. 3.
2007. 3.
2008. 3.
2009. 5.
2010. 5.
2011. 5.
2012. 6.
2013. 6.
2014. 5.
2015. 6.
2016. 6.
2017. 6.
2018. 5.
2019. 6.
2020. 5.
2021. 5.

けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会体制図



分科会参加状況（2021年3月末現在）

IoTネットワーク基盤分科会	
分科会（のべ人数）	41
相互接続性検証WG	35
オープン光ネットワーク基盤WG	6

ユニバーサルコミュニケーション分科会	
分科会（のべ人数）	9
映像コミュニケーションWG	4
気象レーダーWG	5

2021年度活動方針

企画・広報分科会の開催後、緊急事態宣言が延長される等の動きがあり、ICT活用によるコロナ後の社会のあり方が、引き続き重要テーマとなるはずである。既存のWG活動や、シンポジウム等の活動に加え、以下の点について企画・広報分科会等で新たに検討を進める。

(1) 新型コロナウイルス感染症が蔓延する可能性を前提とした新しい生活様式、また、予想される経済の収縮に対応する情報通信技術の役割を検討し、そのための研究開発に向けた産学官連携を推進する。

(2) 万博等関西の大イベントや関西の抱える課題への対応を検討し、けいはんな、関西がポテンシャルを有する分野を生かし、これまでのWGの活動を踏まえた研究開発課題を掘り起こし、新たな研究活動の起爆剤とする。

(3) 感染症に関する情勢を見極めながら開催方法に留意した上で、シンポジウム等を開催し、協議会の取り組みや研究開発成果の講演・展示により、協議会活動の広報や産学官連携関係者との交流・情報交換をおこなう。オンライン開催やオンラインでの情報拡充等も検討する。

2021年度のスケジュール

	2021年度 4月	7月	10月	1月	2022年度 4月
総会	▲ 第20回(オンライン開催)				▲ 第21回(5月頃予定)
運営・研究部会	△ 第21回部会(オンライン開催)				△ 第22回部会(4月頃予定)
分科会	→ 企画・広報分科会：万博、新規分野等に対応した研究開発プロジェクトの企画、推進等				
	→ 研究系分科会：研究開発プロジェクトの推進等				
シンポジウム等			★ けいはんな R&Dフェア2021 (11月上旬)	★ 協議会主催 シンポジウム	

参考

2020年度オープンラボ施設利用状況

課題名	研究機関	人数	研究概要
自動車運転技能評価技術の開発と運転行動の分析による交通事故防止方策の提案	株式会社ATR-Sensetech	4	運転行動自動評価システムについて、評価内容の高度化、地点検出の高度化・安定化および映像情報との複合化の技術を開発する。これをもとに運転行動の長時間データの集積をおこない、他の生理情報との複合的分析により行動評価の個人化を進める。
二面コーナーリフレクタアレイ(パリティミラー)の製造方法の確立および応用空中映像システムの開発	株式会社パリティ・イノベーションズ(NICT発ベンチャー)	5	ナノ加工、ナノインプリント等により製造した光学素子の評価を実施する。また、電子回路等の設計、試作をおこない、新しいメディアあるいはユーザインターフェースとしての空中映像応用システムを開発する。
クラウド環境下における各種資源の最適な配備選択方式の研究開発	株式会社アットフィード	2	オンプレミス環境とクラウド環境で計算資源を遷移するための技術開発と、クラウド間で計算資源を遷移するための技術開発をおこなう。
ウェアラブル香り制御装置の改良及び性能評価	株式会社アロマジョイン(NICT発ベンチャー)	7	ウェアラブル端末と連動可能な超小型の香り制御装置を開発し、仮想現実コンテンツに嗅覚といった情緒や長期記憶にかかわる香り情報を提供することで新しい付加価値を創出する。
IoTを活用した安全管理支援システムの研究開発	株式会社プロキダイ	3	ストレスフリーな着け心地で安定したバイタルデータを測定できるマルチ生体電極技術をベースに、心拍数、呼吸、体温等をセンシングできるセンサーと遠隔で監視できるシステムを構築する。
5	5	21	合計

(利用開始日順)